

(2019年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」)(学校法人河原学園河原電子ビジネス専門学校)

(「職種横断型データサイエンス」教育のためのカリキュラム・教材開発事業)

目的概要

労働生産性の低さが指摘されている地域である愛媛県において、多様な職種で仕事をする一般的な就業者を念頭に、多様な職種の就業予定者(多様な学科の専門学校生)を対象とし、専門学校の多様な学科の既存のカリキュラムに対してビルトインした職種横断的な「データサイエンス」の知識を教育するためのカリキュラム、テキスト、コマシラバスの開発を行う。

調査・研究

【将来人材に関するニーズ調査アンケート】

- ・調査目的 一般社団法人データサイエンティスト協会のスキルチェックリストver2.0にもとづき、愛媛県内企業の人材ニーズの傾向を把握する際の参考とする。
- ・調査対象 愛媛県内・県外企業500社(人事・採用担当者を対象)
- ・調査事項 質問用紙を用い、『将来採用したいと思う人材(社員)』の条件として、各項目に対して4択記述で回答を求めた。
- ・調査方法 郵送およびWeb
- ・回収数 231社(回収率46.2%)

カリキュラム・教材作成

【カリキュラム】

3領域のカリキュラムは、ビジネスモデリング領域、データサイエンス領域、データエンジニアリング領域からなる単元群として構成される(合計約120単元)。

【教材作成】

3領域のテキストは、上記カリキュラム(単元群)に沿って開発される。3領域で合計600ページ以上のボリュームを想定している。

実証

【講義形式の実証講座】

事業年度3年目の10月～12月頃に、愛媛県内の専門学校で講義型の実証講座20コマ(90分1コマ)程度を実施する。

【PBL型実践演習の実証講座】

事業年度3年目の12月～1月頃に、愛媛県と高知県の専門学校で、PBL型実践演習の実証講座(2～3日間もしくは8～10コマ程度)を実施する。

事業成果

3領域のカリキュラム、3領域のテキスト(合計600ページ以上)、3領域のコマシラバス(合計60～90コマ分)(「履修判定指標」を含む)、PBL型実践演習のテキスト(30ページ前後、演習成果の評価基準を含む)を開発する。

成果の普及

- ・河原学園、龍馬学園、小山学園の各専門学校にて活用する。
- ・とくに河原学園と小山学園では、開発したカリキュラムおよびテキストを、新設コースや新設学科の基幹部分として活用する。
- ・愛媛ニュービジネス協議会や愛媛県産業創出課の交流先企業に提供する。

※図や写真等を用いながら、事業内容や成果がわかるように作成してください。